

吃音のある子どもの保護者が、不安や悩みを打ち明けても・・・



「私がいけなかったのかしら…」

「相談してもわかってもらえないんだ…」

罪悪感

孤独感

解説

吃音は、親の接し方、ストレス、家庭環境が原因で始まるものではありません。

正しい情報の提供こそ、保護者の安心感につながります。「そのうち治りますよ」「意識させてはいけません」という、不確かな助言ではなく「吃音のある子どもに、今、何をすればいいのか」を保護者と一緒に考えてあげてください。(環境づくり編参照)

— 吃音のある子どもをもつ親の経験談 —

娘が小さい頃、保育園の先生に吃音の相談をしたことがありました。「小さい頃はよくあることです。自然に接して、吃音を意識させなければ治りますよ。様子を見ましょう」という助言をいただきました。それ以来、どんなに娘がどもっていても気づかないふりをして、意識させないよう懸命に心がけてきました。でもその後も、吃音が

消えることはありませんでした。

娘はいつからか、吃音を隠そうと人前で話さないようにしているようです。心配ですが、私は娘と吃音の話をするきっかけもつかめなままです。

最近、「吃音のある幼児のほとんどは、自分の話しづらさに自覚がある」ことを知りました。娘は小さい頃から、不安や悩みを抱えて続けてきたのではないかとすると、何もしてあげられなかったことが悔やまれてなりません。

相談に行く目安

吃音の症状に波があっても続いている場合、周りが話し方に気づき始めてくる時期(年中後半ころ)には、専門機関への相談をおすすめします。

相談先の案内

おすすめの本 『子どもの吃音 ママ応援 BOOK』 菊池良和著 学苑社 『「吃音」の正しい理解と啓発のために—キラキラを胸に—』 堅田利明編著 海風社

おすすめのホームページ 吃音ポータルサイト 金沢大学 小林宏明先生 <http://www.kitsuon-portal.jp/>

知ってる？ 吃音のある有名人

重松清 (作家) ハメス・ロドリゲス (サッカー選手)
江崎玲於奈 (ノーベル物理学賞受賞) ジョージ6世 (英国王)
小倉智昭 (アナウンサー) ブルース・ウィリス (俳優)
田中角栄 (元首相) ダーウィン (生物学者) など

きつおん親子カフェ

「吃音のある子どもはひとりじゃないよ」をコンセプトに、吃音のある子どもと親を中心とした交流会や講演会の開催、吃音の啓発活動を行っています。保護者、ことばの教室教員、言語聴覚士、大学生などの有志で運営しています。

思いを分かち合える親仲間も待っていますよ

監修/山崎 和子 (言語聴覚士)
制作/広島市言語・難聴児育成会
きつおん親子カフェ

発行/2023年8月(第2版)

吃音リーフレット(無料)のお申込みは、こちらから <https://kitsuonoyakokafe.wordpress.com/>



あ、あ、あ、あいうえお

知ってほしいな！きつおんのこと

はじめに

言いたいことが頭に浮かんでいるのに、その言葉がスムーズに出せない症状を、吃音(きつおん)と言います(一般的に「どもる」とも言います)。

吃音のある子ども達の中には、様々な生活場面で困っている場合があります。けれども、そのことに周囲は気づかずにいることもあるのです。

周囲が吃音を正しく理解し関わることで、吃音のある子ども達が自分らしく健やかに成長していけるようお願い、このリーフレットを作成しました。ご活用いただければ幸いです。

こんな子はいませんか？

① モジモジして、なかなか挨拶ができないA君。



周囲の誤解 「恥ずかしいのかな」「緊張しているのかな」「何を言うのか忘れたのかな」

② 園では口数が少なくて自己主張ができないBちゃん。「家庭ではおしゃべり」と保護者。



周囲の誤解 「おとなしい子どもだな」「人見知りなのかな」

③ しゃべろうとするとカんで、足ぶみしながら叫ぶように話すC君。



周囲の誤解 「話すだけなのに、どうしてカんでいるんだろう」

④ 「お、お、お、おかあさん。こーれ食べたい」と話すDちゃん。



周囲の誤解 「あわてているんだ」「ふざけているんだ」「早口だからこんな話し方になるんだ」

それぞれ、以下のような吃音の症状である可能性があります。

- ① 難発 ② 話すのをやめてしまう。あきらめてしまう。(二次的症狀)
③ 力む、足ぶみをする(伴っておきる症狀)。難発 ④ 連発、伸発
※あわてたり、緊張したりしていなくても、吃音はおこります。

※詳細は次ページへ

吃音のある子どもが、自分らしくのびのびと成長していくために

STEP 1

吃音の正しい知識をもとう

STEP 2

子どもと吃音の話ができる関係になろう

STEP 3

周りに吃音の理解を広げよう みんなで取り組もう

ぼ、ぼ、ぼくはぼくのままで大丈夫！



知ってほしいな、きつおんのこと【基礎知識編】

2～5歳頃に始まることが多く、幼児の約20人に1人の割合で見られます。

約8割の人は自然治癒

2割は幼児期を過ぎても吃音が続きます

吃音になる原因は？

はっきりと特定されておらず、確実な治療法も確立されていません。

親の接し方やストレスによって吃音になるという考えは誤りです。

話す場面や、時期により、吃音が出たり出なかったりする。	聞き手（家族・先生・お友達）の反応や態度によっても左右される。	言いやすい言葉や、出にくい言葉がある。
-----------------------------	---------------------------------	---------------------

吃音の出方に一喜一憂しないことが大切です。

ぼくは「あ」行が言いにくいよ

吃音はこんな症状

き・き・き・きのうね



連発（れんぱつ）

言葉の一部をくりかえす

ギーのうね



伸発（しんぱつ）

言葉の一部を伸ばす

・・・っきのうね



難発（なんぱつ）

力が入り、つまって声が出づらい

伴っておきる症状（随伴症状）

- ・手をふりおろす、足ぶみをするなど、言葉を出すタイミングをとる。
- ・力む、舌を出す、顔をゆがめるなど、本来話すときに必要のない動作がおきる。

（多くの場合、適切な対応をすることで、少しずつ減っていく。）

二次的症狀

- ・言いにくい言葉を、ほかの言葉に言い換えて言う。
- ・どもるかもしれないという不安から、話すのをやめてしまう。あきらめてしまう。

外から見える症状

話しづらさ・吃音への嫌な思い

吃音が重くなるリスクとなりがちな周囲の反応や態度

マネされる。からかわれる。笑われる。

「ゆっくり話そうね」「落ち着いてね」と声かけをされる。「ふざけないで」と叱られる。

話し終わるまで待ってもらえない。「早く〜」とせかされる。

友だちに「どうしてそんな話し方をするの?」と聞かれ、答えに困る。

板ばさみ・不安

「ぼく、声が出にくいときがある」とお母さんに言っても、話をそらされる。

どうしてなのかわからないんだ...

吃音をマイナスとしてとらえてしまう

ぼくの話し方いけないの? ぼくっておかしいの?

子どもの吃音の多くは連発から始まります。言葉をくりかえしたり伸ばしたりせずに話したい、との思いから、話し方の“工夫”をするうち、のどや口に力が入るようになり、本人の意思に反して言葉が出しにくくなっていくことがあります。（個人差があります）



【環境づくり編】

周りの人が吃音を受け入れてくれていると、子どもが感じ、のびのびと安心して話せる環境づくりをしていきましょう。

吃音の話をする



吃音の話をするときのポイント

話しづらさについて、「親が分かってくれている」と、子どもが思えることは、安心感への第一歩です。

折りにふれ、何度も子どもと吃音の話しましょう。

子どもと吃音の話をする中で、症状が重くなることはありません。

子どもの話を聞くときのポイント

子どもの話を最後まで聞き、話し終えてから、一呼吸おいて返しましょう。

子どもの話を聞く



ゆったりとした雰囲気の中で話を聞きましょう。

話し方より話す内容に耳を傾けてもらっていると、子どもが実感できる言葉かけをしましょう。

吃音がでも心配そうな顔をしないでください。

「ゆっくり言って」「落ち着いて」などの助言は、効果がないばかりか、吃音への嫌な思いを大きくさせてしまいます。

みんなと一緒に考える



みんなと一緒に考えるときのポイント

子どもが困っていることや、その思いに耳を傾けましょう。

気になることがあれば、大人のほうから話を向け、すぐに話し合しましょう。

困っていることがあったら、本人、保護者、先生とで対応策を一緒に考えましょう。

対応のヒント

「伝わった」という経験を大事にするために、話し言葉に限らず本人の伝えやすい方法を考えましょう。



理解を広げる。みんなに取り組む。周囲の理解は、吃音のある子どもへの応援になります。

クラスメイトへの説明の例

【本人・保護者と話し合ってから説明して下さい】

〇〇くんは、お話しをするときに、「き、き、き、きのうね」とか、「せ、せ、せ、せんせい」のように、言葉の最初を何回も言うことがありますね。

「なんでだろう?」「おもしろいしゃべり方だな」って思ったお友達もいるかもしれません。

でもね、〇〇くんは、ふざけたり、わざとやったりしてしているのではないのです。これが、〇〇くんの話し方なの。

〇〇くんは、みなさんのことが大好きだから、いっぱいお話ししてくれます。だから、これからも、たくさん〇〇くんとお話ししてほしいし、「あ、あ、あ…」ってなっても、待ってあげてほしいの。

そして、〇〇くんのことを「どうしてかな?」って思うお友達がほかにいたら、みなさんが「最後まで聞いてね」って言って、教えてあげてほしいと思います。

からかいへの対応

<本人へ>

「あ、あ、あってなっちゃうことで、お友達にマネされたり聞かれたりすることはあるよ。最後までゆっくり聞かない?」※具体的にたずねる

<まわりの子ども達へ>

「からかったりすると、〇〇くんは話しにくくなってしまふよ。最後までゆっくり聞いてあげてね」



「みんな知らないから、さう言うんだよ」「どうしてか、教えてあげてもいい?」



「吐くのではなく、「吃音の説明」を必ず入れてください。」

「〇〇くんさういふ時があるんだな」